

トップ対談

日本将棋連盟会長・永世棋聖 全日本女子バレーボール監督
米長邦雄 & 柳本晶一

人生は

日本のお家芸といわれた女子バレーボールの低迷は著しく、シドニーオリンピックでは出場権すら逃してしまった。平成十五年、その再建を託され監督に就任した柳本晶一氏。様々な工夫と用力をもってチームの活性化を図ってきた氏の軌跡について、永世棋聖の米長邦雄氏に、自身の勝負哲学を交えながら迫っていただいた。



柳本晶一—やなぎもと・しゅんぺいち
昭和26年大阪府生まれ。45年大阪商業大学附属高校卒業後、帝人三原に入団。46年新日鉄に移籍。日本代表として49年世界選手権に出場、51年モントリオール五輪に猫田勝敏氏の控えとして出場。55年から新日鉄の選手兼監督。61年日新製鋼のチーム発足時に監督として招かれ、当時史上最短の5年で日本リーグ昇格に導く。平成9年東洋紡監督に就任。2年目でVリーグ初優勝。14年退任。15年全日本女子監督に就任。16年アテネ五輪5位。著書に「人生負け勝ち」(幻冬舎)「力を引き出す」(PHP研究所)がある。

米長邦雄—よねなが・くにお
昭和18年山梨県生まれ。中央大学中退。31年佐瀬雄次に入門。46年8段。54年9段。タイトル獲得19回、優勝16回。60年永世棋聖。平成15年史上4人目の1100勝棋士。同年現役棋士引退。17年から日本将棋連盟会長。著書に「人間における運の研究」(致知出版社)、「不運の研究」(角川oneテーマ21)、「人生一手の違い」(運と「努力」と「才能」の関係) (フン・ポシエツト) ほか多数。

工夫用力にあり

火中の栗を拾った二人

米長 先日、千駄ヶ谷の将棋連盟にいらしていただいたそうで。柳本 番組の収録で使わせていただきました。プロ棋士の対局も拝

見しましたが、すごいですね。空気がピンと張って、いつ息を吸っていいかわかりませんでした。米長 監督は、将棋は好きですか。柳本 小さい頃、周りで盛んだっ

たのでよく遊んでいました。本将棋とか結構強かったですよ。米長 実は監督とは間接的にご縁があるんです。監督は大阪商業大学の附属高校のご出身でしょう。あの大学にはアミューズメント産

業研究所という、将棋やチェス、碁などの博物館があって非常にお世話になっています。あそここの谷岡一郎先生に先日お目にかかったら、「柳本監督は会ったら最初から最後までずっとバレーの話です。